

## 令和3年度 多職種連携推進・研修部会

- 1 部会長・副部会長の選任について
  - ・部会長 田原委員
  - ・副部会長 中川委員、山田委員
- 2 令和3年度多職種連携推進・研修部会の進め方について
  - ・研修内容について  
認知症連携部会より認知症の初期集中事例をテーマとした合同の研修を行いたい旨の提案あり  
講師：武蔵野赤十字病院 鎌田先生（予定）
- 3 令和3年度第1回研修会

### 「新型コロナウイルス感染症における自宅療養支援と在宅医療介護連携」

新型コロナウイルス感染症患者の急激な増加による感染症患者の自宅療養が非常に増えてきているため、急遽オンラインによる研修を企画し、「新型コロナウイルス感染症における自宅療養支援と在宅医療介護連携」のテーマで講演会を実施することとした。

日 時：令和3年8月25日（水）午後7時30分から午後9時

会 場：オンライン研修（事務局：市役所812会議室）

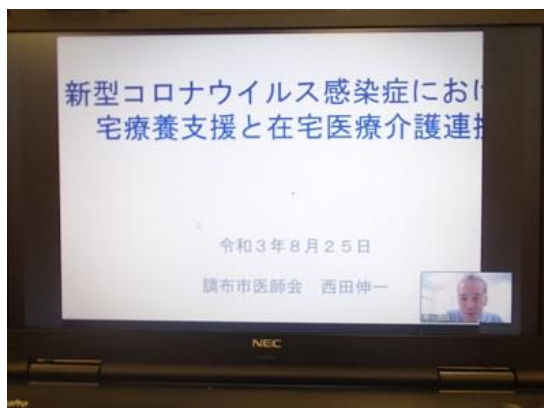
内 容：「武蔵野市における自宅療養支援事業」

武蔵野市安全対策課長 今井 隆文

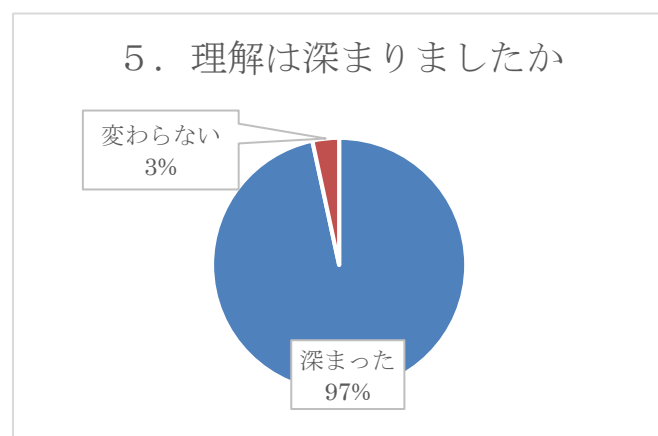
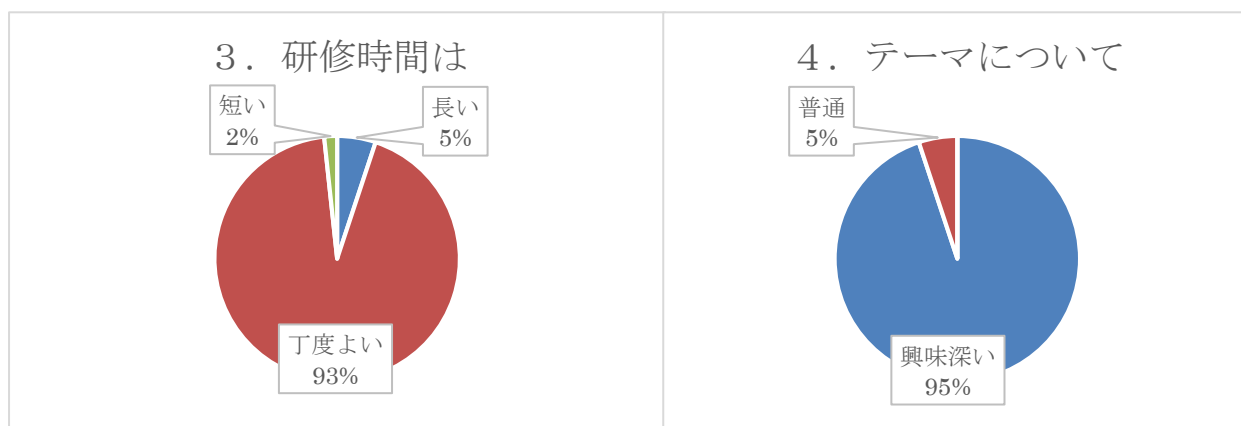
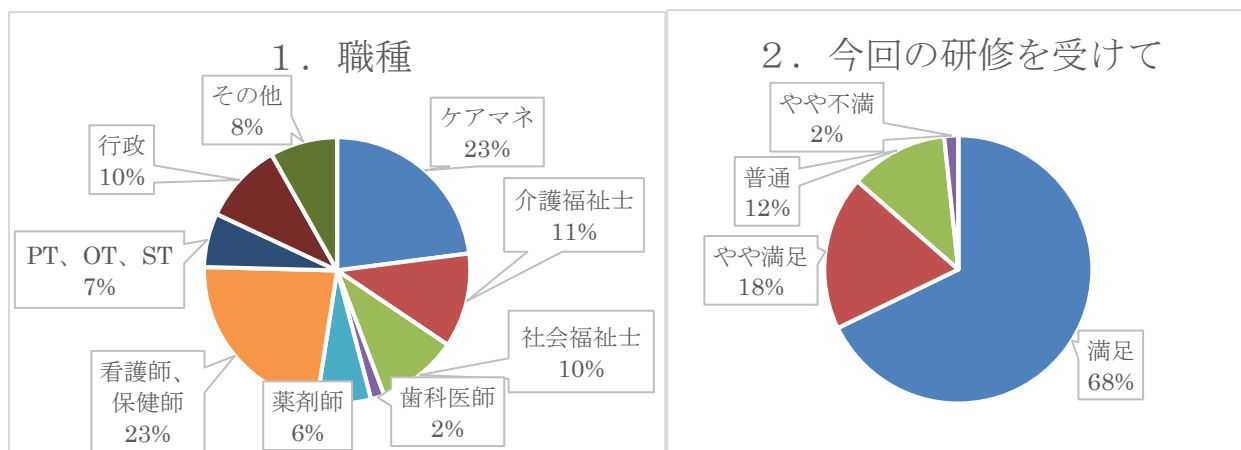
「新型コロナウイルス感染症における自宅療養支援と在宅医療介護連携」

東京都医師会理事 調布市医師会会長 西田 伸一 氏

参 加 者： 198 アカウント 291 名



アンケート結果： 回答数：60



## ＜感想＞（一部抜粋）

- 非常にタイムリーな内容で、保健所からの相談事例等は、つい自分事として拝聴してしまいました。軽症の自宅療養者に対する臨時的医療提供や、ビデオ通話ルームからの診察等、最前線の状況や課題に向けての対応等とてもよくわかりました。
- もっと聞いてみたいと感じました。自宅療養者の在宅支援は医療面からのサポートだけでなく、生活面のサポートが必要となる。生活面でのサポートを訪問介護事業所として何が出来るのか早急に取り組む内容だと感じました。
- 市内のコロナ自宅療養者数も増える中、現状や今後の対応方向性など大変参考になりました。
- 内容がよくまとめられていて、わかりやすい研修になっていました。
- 自宅療養中の軽症者の対応や中重症者の在宅医療対応のための体制構築を早期に行わなくてはならないことが喫緊の課題であることがわかった。また、オンラインでの診察の拡充、0410対応が可能な薬局を増やし、訪問看護との連携の推進など、多職種、他機関連携をどう進めていけばよいか考えなくてはならないと感じた。
- 今回のテーマは、今まさにこの地域で起きていることについてだったので、身近に感じている。今後どのくらい継続するのかについては不透明だが、市役所担当と医療機関と今ある情報共有をしながら話し合いを続ける必要があると感じた。
- なかなか詳細を知ることが出来ない他市の地域連携の動き等、とてもわかりやすく講義していただき、ありがとうございました。
- ひとつのテーマについて、多職種がそれぞれの専門性の視点を持って参加し、在宅医療・介護の中でそれぞれの専門性を発揮して連携することでよりよい形になると思います。
- 数年前から多職種連携の構築に向けて事業が進められてきましたが、このコロナ禍でその意義がより明確になり、連携の形はひとつではなく多種にわたると感じました。
- 新型コロナウイルス感染による自宅療養者急増の渦中、タイムリーな研修テーマで現場の先生にお話をお聞きすることが出来ました。介護職の立場でできることはないにしても、身近にいる在宅高齢者や職場、親族に情報を発信することは出来ると思います。あらためて訪問診療・訪問看護の地域の医療の方々に感謝するとともに武蔵野市でもスピーディーな医療と生活支援の連携を期待しております。
- コロナウイルス感染者に対する自宅療養支援（独居や高齢者世帯）の難しさを実感した。
- 田原先生の進行、西田先生のお話が非常にわかりやすかった。
- 今回の研修は医療行為に偏りすぎていたように思います。
- 現状と医療の取り組みはわかりましたが、「医療介護連携」がテーマとは捉え難い研修であったと思います。
- 今後もこのような重要な情報を発信していただきたい。